
研究紀要

第69集

目次

はじめに	吉川 一義	
研究概要 全体論	堀井 洋一	2

考える子を育む

— 学ぶ楽しさを味わう授業 —

理論と実践

国語科	坂井 昇・加納 篤・濱名 秀晃	10
社会科	泊 和寿・澤田 兼祐	24
算数科	石田 美保・服部 美雪	34
理科	森田健太郎・中前 元久・小網 達也	44
生活科	中川 好美・早川 佳奈	58
音楽科	西村真理子・笹谷真理子・徳田 典子	68
図画工作科	齊藤江利子・中川 佑紀	82
家庭科	馳 裕紀子	92
体育科	島貫 由郷・北 豊	98
道徳	太田ちはる・北野 美紀	108
英語	堀井 洋一	118
情報教育	杉森 慎一	124

おわりに	的場 茂樹	
------	-------	--

平成27年(2015年)11月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

はじめに

考える・学ぶ・楽しさ、等々のキーワードは、一般に学校研究を象徴するものとして、これまでも取り上げられてきました。考えて学ぶことを「育ち」を担う営みの中核とし、この実体を個人と他者、物との相互作用に見だし、その原動力を楽しさという個人の情動的側面に求めてきました。

本校は、昨年度より「考える子を育む」を主題として学校研究をはじめ、その成果をもとに今年度は「学ぶ楽しさを味わう授業」に焦点化した検討を進めています。

我々は生活事象に出合って何らかの意味を取り出し、この意味に従って行動します。そして、取り出す意味はそれまでの生活履歴から得てきた知識に依存します。したがって、知識内容のもちようによっては、同じ事象に出合っても個々人が得る意味には違いが生じ、結果として判断・行動に影響します。これより、判断・行動において知識は重要な役割を担っているといえます。知識の得方として、我々は一般化された情報の形で知識を受け取り（知る）使う、あるいは、生活世界の事象に出合ってはそれまでの経験から得てきた知識（知っていたこと）を使って関わり、その結果のうちの気づいたことにもとづいて、それまでに「知っていたこと」に修正・更新を加えて「わかった」状態にいたりします。この過程で、他者との交流による「試行錯誤」は多様さを与えて学びを発展させる作用だけでなく「みんなは、こういうことを承認する」（他者からの承認を受ける）ことを知って自己価値（自尊心）を形成する作用をもたらします。この営みによって、生活世界（現実の事象）に対する「自分にとっての意味の世界」を再構成していくと思われれます。その上で、子ども達がこの営み自体をも自分に即して評価して価値（原動力）を見出すことに期待しています。

このような視座をもって本校研究の関心は、子ども達が「生活世界」の事象から学んで、事象に対する「自分にとっての意味の世界（内面）」を再構成すること。そして、再構成した意味の世界（内面）をもって生活世界で行動していくこと。この往還による「育ち」の捕捉にあります。これら各次元における相互作用と両次元往還の実体を子ども達の具体的な言動から可視化し、良循環へと導くための教師による意図的な介入について明らかにすることを目指しています。そのために、これからも検討しなければならない課題も少なくありません。

どうぞ、皆様には忌憚のないご批判、ご意見、ご教示をお願いしたいと思います。それを踏まえて、来年度の発展へ向けての努力を重ねていきたいと考えています。

最後に、いつも本校の研究を支えていただいている多くの皆様に心より感謝申し上げ、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いして、巻頭の言葉といたします。

平成 27 年 11 月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

校長 吉川 一義